

変態性慾

全六巻十別冊

○すいせん……山下武彦・佐藤達哉(立命館大学助教授)

○体裁……A5判/上製/総約二、三〇〇ページ/全三六号を六巻に合本製本

○別冊……解説(斎藤光)・総目次(別冊のみ分売可)本体価格五〇〇円

○揃定価……本体九〇〇〇〇円十税

○刊行……一九二一年一月

〈復刻版巻数〉(原本巻号数)

第1巻……第一号、第八号……一九二二年五月〜二月

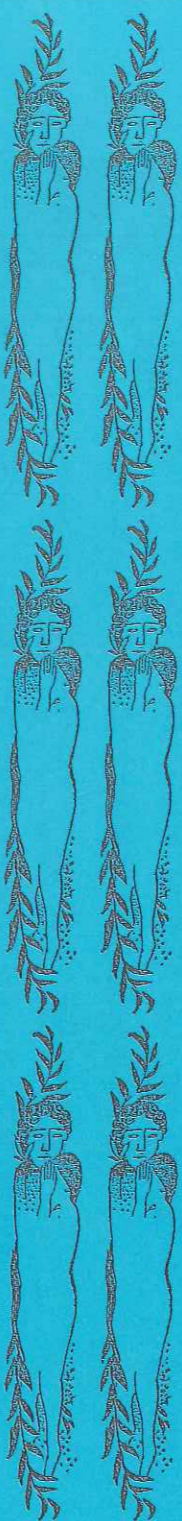
第2巻……第二号、第六号……一九二三年一月〜六月

第3巻……第三号、第四号……一九二三年七月〜一月

第4巻……第四号、第五号……一九二四年一月〜六月

第5巻……第五号、第六号……一九二四年七月〜二月

第6巻……第六号、第七号……一九二五年一月〜六月



○関連図書「復刻版」のご案内

変態心理 全二四巻十別冊

「変態」とは「常態」ではないこと、「変態心理」とは異常心理、超心理をいう。

本誌は、現在でいうところの多重人格、トラウマ、精神病質、神経衰弱、心霊現象、催眠現象、マインド・コントロール、サイコセラピーから買売春、嬰兒殺し、ドメスティック・バイオレンス、幼児虐待などのさまざまな「変態」の具体的事例を満載した研究雑誌である。

心理学・精神医学はもとより、近代文化史などの分野に活用できる資料の宝庫である。

○編集委員 小田 晋十 栗原 彬十 佐藤達哉十 曾根博義十 中村民男

○体裁 A5判/上製/総約二、〇〇〇ページ

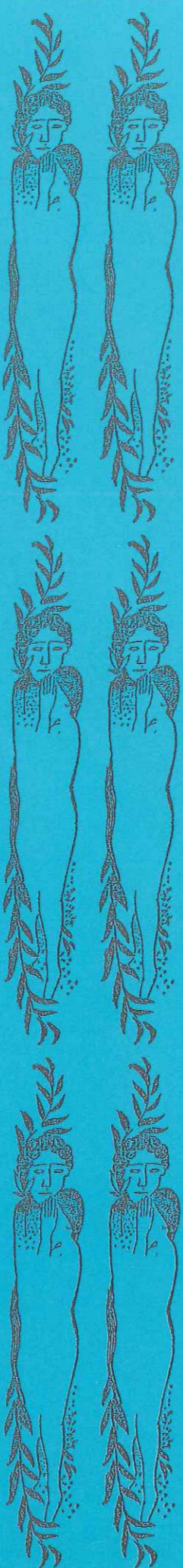
○別冊 解説(曾根博義)・中村古峽と私(中村民男)・総目次・索引

○揃定価 本体三〇三、〇〇〇円十税

変態性慾

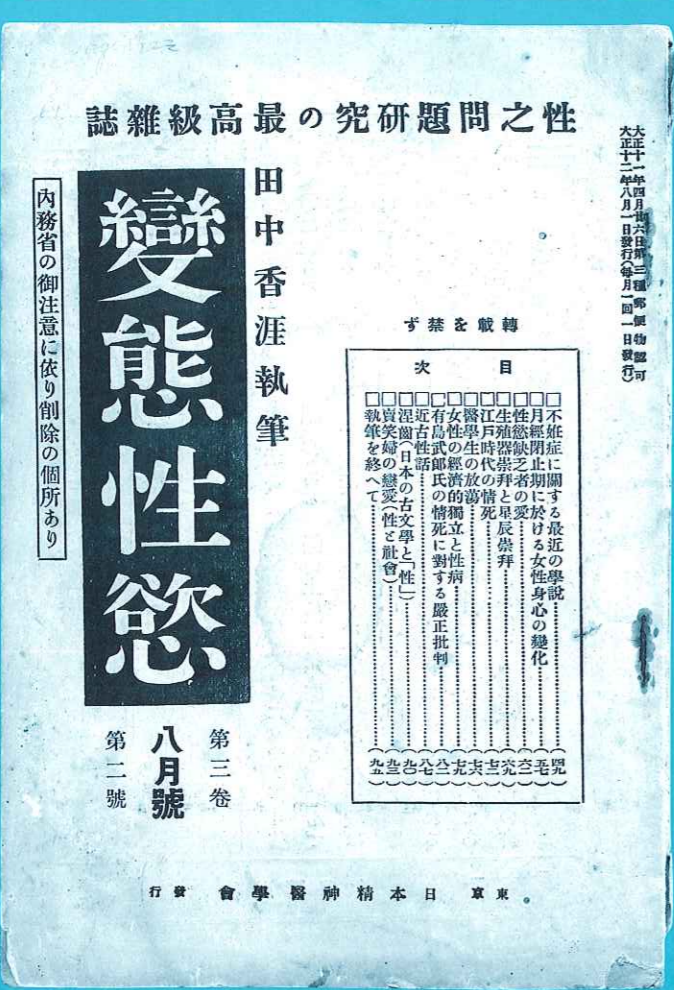
一九二三年〜一九二五年

新選録



全六巻十別冊……揃定価 本体九〇、〇〇〇円十税

田中香涯 主筆 日本精神医学会 発行



一九二〇年代の「性問題研究の最高級雑誌」、全冊復刻!

田中香涯(こうかい)『田中祐吉一八七四〜一九四四』が『変態心理』主幹・中村古峽の全面的協力によって発刊した性研究の純学術雑誌。

性研究こそが人間と社会問題にとって緊要だという信念のもと、当時「変態」すなわち「異常」と呼ばれた性のあらゆる形態を究明。生殖器の機能、疾患・同性愛・トランスセックス・買売春・婚姻外性交・避妊・人工妊娠中絶・生殖器信仰・性犯罪・性文学・性美術・性暴力・心中などを論じている。

性科学研究はもとより教育・医史学・女性・文化史研究に貴重な文献! ……不二出版

20029

不二出版(株)

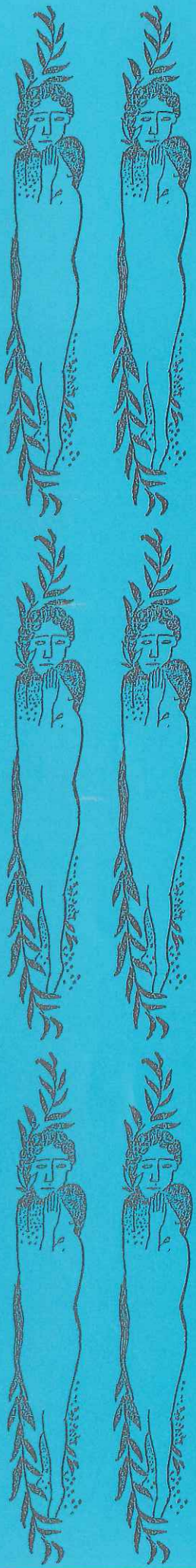
〒113-0023 東京都文京区向丘1-2-12

電話(03)3812-4433

フックスリ(03)3812-4464

振替 00160-2-94084

●表示価格は、全て税別です。



「推せん文」

性科学研究の金字塔

山下武（作家）

今日、医事評論家として活躍している人は多いが、その先駆者・田中香涯（裕吉の名を忘れてはなるまい。彼は正大から昭和初期にかけ、在野の研究者として中村古峽、森田正馬らとトライアングルの一角を形成。医事評論・性科学研究に多大の貢献をなしたが、その中心となる発表機関が月刊雑誌『変態性慾』だった。しかも驚くべきことにその全誌面を独力で埋め、「他の寄稿を待たずとも、独力で執筆を継続し得べき自信を持つてゐる」(発刊の辞)と宣言した豪語に背かなかつた。これなど、基礎知識たるべき医学・生物学・心理学・社会学等の素養造詣によほどの自信がなければできないことではない。田中香涯のめざす性の研究はあくまで純学術上の見地から、性的生活、とりわけ変態性慾に関する事象を論究するものだからである。

このたび復刻版の刊行を見た『変態性慾』(全六巻)こそは、彼が全く独力でなしとげた性科学研究の金字塔であり、これによってこれまで不当に忘却されてきた田中香涯の業績再評価への機運が一挙に高まることだろう。

……やましたたけし

「本文相見本」創刊号(一九二二年五月)

— 一 辭 の 刊 發 —



發刊の辭

近年來「性」の研究は一種の流行となり、之に關する著書雑誌の向背相望んで踵出するが如き有様であるが、併しその中には人心の弱點に乘じ、或は世俗の好奇心に迎合して響感に堪へざる記事を掲載するが如き者の尠からざることは、私の深く遺憾とする處である。加之、所謂性の研究を標榜する人達の中にも、其の基礎的知識たるべき醫學、生物學、心理學、社會學等の素養造詣に乏しく、徒らに他人の研究に成つた論文や著書、事を剽竊し、或は焼直しなごして我が物顔に振舞つてゐるや、く無い様である。私は固より淺學非才の學究であるが、しては、既に十數年以來之に従事し、多少の自、同性愛の一實例であるから、近年來流行の性研究の内容、子多く、之がために世の識者をして七月十三日の日附で、T・O生なる匿名

同性愛の一實例

同性愛の一例
之を讀むと、其の人は同性愛者であつて、其の性慾の變態を切實に痛感して、私の同情を求めた悲痛の私信である。

時下不順の候益々御健勝の段大賀申し上げます。就いては先月より先生御發行の雑誌を拜見いたして居りますので、此の自分の戀態な戀に苦しむ「辛らま」を或は此の方面としては有り觸れた事かも知れませんが書き綴つて、理解深き先生に打ち明けて、せめてもの心やりと思ひます。自分は廿七歳の青年です。生理的に何の畸形も自分として

「普通」の声を聞く

佐藤達哉（全立命館大学助教授）

変態といふのはいかにもものものしい。今では変質者のイメージが強いからだろう。しかし、もともとは変態はabnormalだった。普通ではないという記述的な意味だったものが、変な人というような価値的な意味を付与されていく過程にあつたのが「変態性慾」の時代だった。

性に限つたことではないが、人間の行動には様々なバリエーションがあり、それが正常かということを決めるのは難しい。本来、どんなことも「普通」のことなのだ。そこを逆手にとつたのが田中香涯の戦略だったのではないだろうか。彼は自分が扱っていることは「普通」のことなんだと分かつていただろう。人間にとって「普通」のことだから、人間の理解に役立つと思つていただろう。逆説的な「変態性慾」というラベル付けこそが、彼の扱う「普通」のことを後世に残す手段となることも分かつていたのかもしれない。

そして今、「変態性慾」の内容が今日に通じるのは、それが「普通」のことだったからではないだろうか。「普通」だからこそ普遍的。香涯の見方は未来の先取りだったし、当時「普通」だった人たちのあり方は、今、「普通」である人や「普通」でないかもしれないと思わざるをえない人たちの背中を支える力になる。

……さとう たつや

第一巻第五号(一九二二年九月)